

令和2年度の教育活動等に対する学校評価書

令和3年3月11日

学校法人富士学園 静岡県富士見中学校
学校法人富士学園 静岡県富士見高等学校

1 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

(1) 学校改善の継承と推進

各委員会とカリキュラム等開発委員会や校務運営委員会との連携を強化し、教育計画を効率的に実施するとともに改善の推進に努めたい。

(2) 学習支援の強化（学習習慣の定着）

学習の中心は、授業である。教員一人ひとりが研修を積み実力の養成に努めるとともに、生徒の学習意欲を引き上げ、自発的な学習の姿勢を育てる。

(3) 高校の生徒募集の安定化

令和2年度の高校入学者は定員400名に対し311名（外進生293名、内申生18名）であり、令和元年度入学者（331名）に対して大幅に減少した。また、本校の進学実績の中心を担う特進コースI類が40名であり、新2年生同様に少数である。来年度以降、特進コースI類の生徒数増加が課題となる。

(4) 中学校の運営・推進と生徒募集の安定化

令和2年度中学校入学者は、定員60名に対し23名である。今回も大幅に下回った。生徒の実態把握や外部からの情報の分析などにより、教育活動の工夫や生徒募集の改善に努める。また、各教育活動の関連を再確認し、それらの体系化を進める。

2 自己評価とそれに対する学校関係者評価

※ 評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で記載する。

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
1 学校改善の継承と推進	<p>(1) 学習活動と部活動の充実 入学した生徒が学力を向上させ、希望の進路を実現できる学校づくり、部活動を通じて心身の充実を図るとともに、その成果によって、地域に誇れるような学校づくりを推進する。</p> <p>(2) 生徒の主体性の育成 生徒一人ひとりが、問題や課題、将来の目標を見据え、自ら考え、工夫し、行動し、達成感を得ることのできる学校作りを進める。</p> <p>(3) 学校の独自性の追求 長い伝統を持った私立高校としての特色を更に伸ばし、生徒一人ひとりが愛校心をもてる学校づくりを目指す。</p>	<p>(1) 学習活動と部活動の充実 ア 学習活動 ・大学見学を1学年の6月に実施し早期に進学の意欲を持たせる。また、見学する大学の選定について工夫する。 ・補習だけでなく学力の定着状況の評価や学習目標に関する面接指導により入試の学力の向上を図る。 ・体験学習への積極的な参加をさらに推進する。 ・進学コースについては、今年度、基礎学力の定着を主眼に、変更したウィークリースタディを総括し更なる改善が必要かどうか検討する。また、看護学校志望者に対する補習を充実させるとともに、各種の資格の取得などへの一層の意欲を高める。 ・ICT活用等により学習効果を高める。(継続) イ 部活動 ① 多くの生徒が部活動に所属し、有意義な放課後にする。 ・4月に部活動加入WEEKを実施し実際の活動を体験させることにより、入部後の混乱を防ぐ。 ・生徒数の減少に伴い、部活動の統廃合の検討を進める。 ② 学校全体で、部活動を応援できる体制づくりを推進する。 ・生徒会新聞に部活の活躍等を載せ学校全体で情報を共有する。 ・HPに部活動の成績や、活動内容を詳細に掲載する。 ・部活動等の成績を、積極的に報道等に提供する。</p> <p>(2) 生徒の主体性の育成 ・生徒に責任を持たせることで、リーダーを育成するという目標に向け、中央委員会が中心となり生徒の主体的な活動を集約する場を作る。 ・富士見祭や集会での生徒会本部や該当委員会の自主的な活動を一層活性化させる。 ・高校特進コースにおけるHAPや中学のF活動などで、研究発表や自主的な校外活動参加などを推奨し将来の夢の実現に必要な資質能力の伸長を促す。 ・学校説明会などにおいて、在学を説明者として参加させることにより、表現力やプレゼンテーションの能力を高める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の3月、今年度の4・5月の臨時休校により、授業時間の不足を補うため授業の進度を早めたりすることで、思うように学力の向上が図れなかった。 ・ICTに関しては、教室での環境も整備され大きく前進しているので、多くの教員が授業等で活用を始めた。今後期待できる。 ・学校説明会での在校生の起用を、昨年以上に準備して臨んだところ、中学生・保護者ともに非常に好評であった。在校生の表現力やプレゼンテーション能力が、以前に比べて高くなった事も好評の要因であった。 ・様々な行事が中止になったことで、生徒会活動や各種委員会活動の場が失われてしまい、生徒の主体性や先輩から後輩への継続性を形づくりにくい状況になってしまった。また、部活動の大会やコンクール、ボランティア活動等も中止になってしまい総合選抜型推薦に繋がれるような活動実績を積み重ねてあげられなかった。 ・大学見学は特進コースが東大、早稲田、進学コースは帝京大学を予定していたが中止。 ・体験学習は警察、消防、自衛隊を招き、公務員講座の開催。湘南医療大学を招き、看護講座の実施。 ・進学コース高等看護学校志望者への補習を夏休みから行い、一般受験での複数合格につなげた。 ・部活動が制限される中、女子バレーボール部が春高バレー8年連続出場、バトントワリング部が全国大会出場、男子バドミントン部、女子ソフトテニス部が東海大会出場などを果たしている。 ・コミュニティ研究会では「障子張り替え隊」や「コミュニティ通信」の発行など、地域住民との連携や協力が出来た。 	A 1人 B 6人	<ul style="list-style-type: none"> ・入学した生徒が3年間を過ごすうちに成長していき、かなり満足感を抱いていったことがうかがえる。 ・今年度の大学入試の結果を見ても、これからの更なる進展が期待できる。自分達もやればできるのだという自信を生徒一人一人が持ってやれば、より高い成果も決して夢ではない。 ・授業だけを取り上げ生徒の意欲や主体性を育むことが可能なのだろうか？富士見高校教育活動のダイナミクスの中で実現すると考える。 ・中高一貫の特色を活かし6年間で育む教育施策とその理念を熱望する。 ・生徒が達成感を得られる学校作りの具体的取組策は？ ・長い歴史がある学校として、眠っているものを掘り起こし、現在の視点から再考する場面があっても良い。「表」に出す作業となる。 ・コロナ禍。学校活動が止まり思うように行かなかったのが… ・先の見通しが難しい今ですが、高校生活の貴重な三年間を自分の目標を見つけて様々な事にも取り組むことが、その後の人生に役立つと思います。 ・コロナ禍で臨時休校や様々な活動、行事が中止となりましたが、コミュニケーションを取り今までに経験しなかった新しい事を探し続けた一年間だったと思います。 ・学習面では、ICT環境整備が進み、授業に活用して、生徒を取り残すことなく取り組んでこられて良かった。これからの学習に生かして行ってほしい。 ・今年度は想定外の世界規模による新型コロナウイルス感染拡大が発生し、一年を通し、学校としても予定していた行動、活動ができなかったと思います。その中で学校側としては、生徒の健康、安全を第一優先とし、出来る限りの対処はしてきたのではないかと思います。来年度も新型コロナウイルスの影響は無くならないでしょうが、このような状況下だからこそ、ポジティブな発想、逆転の発想で、進めてほしいと思います。

		<p>(3) 学校の独自性の追求</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神や校訓に関わる行事の検討を進める。 ・英語学習の更なる強化と国際理解教育を推進する。 ・「地域への情報発信」の手段として、看板設置、ホームページ等を更に工夫する。 ・生徒が校外に出て地域への貢献活動、地域の人々と共にする活動を増やす。 				
2 学習支援の強化 (学習習慣の定着)	<p>学習の中心は、授業である。教員一人ひとりが研修を積み実力の養成に努めるとともに、生徒の学習意欲を引き上げ、自発的な学習の姿勢を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初め、夏休み明けなど学校生活の開始の時期に、重点的に、生徒の生活習慣、学習習慣の定着(登校時間、服装、課題提出など)を図る。 ・普通科の3コースについて、それぞれ以下の事柄の継続または改善を図る。 <p>特進Ⅰ類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度間の継続性のある指導体制の改善 ・HAPの時間の工夫 ・難関大学志望者に対する個別指導の充実 <p>特進Ⅱ類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員参加のⅡ類ゼミ(週1回)の継続と改善の検討 ・全員が年間2回全国模試を受験(3年生はⅠ類に準ずる) <p>特進Ⅲ類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅰ類と合同の習熟度別学習集団編成 ・2年次から早期に、国公立大学志望者対象の個別の大学二次試験対策を実施する。 <p>進学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を定着させるための進学コースゼミや補習の実施と改善の推進。 <p>※高校基礎学力テスト、大学入学共通テストや各大学の個別入学試験の内容の情報の収集と対応の検討・実施</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校中も、G-Suite Educationを活用しICTを活用した課題指示や生徒の状況把握が適切に行われた。 ・各教科・科目毎にネット上にClassRoomを開設し、学校内でも学校外でも生徒と教師がつながりやすくなった。それにより課題の出題、連絡のやり取り、情報の管理もできるようになった。 ・Wifi環境の整備(全教室に電子黒板とWifi環境を整備、全教職員にipadを配布)によって進学コースでもICTを活用した授業が多く見られ、様々なスタイルの授業によって目の前の生徒たちの教育効果を上げていくための選択肢を増やすことができたように感じられる。今年度のコロナ禍での各種行事の中止は、ケガの功名と呼べるほどに授業時間の確保に繋がり、授業に向き合う際の落ち着きを生んだ。 ・コロナによる臨時休校措置により、年度始めに計画した学習支援を十分に行うことができなかった。特に大学入学共通テストを利用して大学進学を目指す高3生に対しては、理科・地歴公民を中心とした補習を組んだが、例年よりかなり遅れてスタートした形となった。 ・学習意欲につながるイベントが中止になったことは残念であった。本校が企画するイベント、例えば夏の勉強合宿や大学見学が中止になったこと、また、外部主催の大学合同進学ガイダンスや各大学のオープンキャンパスに生徒たちが参加できなかったことは、高い進学目標を持って勉学に励むという中の「高い進学目標を持つ」動機付けにもなり得た機会が失われたという点で残念であった。特進コースは大学進学へのモチベーションがあってこそその授業であり学習支援であるべきなので、理想とはほど遠い1年となってしまった。 ・スクールカウンセラーを週2回配置し生徒の様々な悩みや相談窓口として活用し、学年団や生徒指導部と連絡を密にし、組織的に生徒の学校生活の支援に当たることが出来た。 	<p>A 1人</p> <p>B 6人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の指導の成果がよく分かります。ただ、生徒の家庭での学習時間が少なすぎると思う。1時間以下が多いのは残念だ。 ・生徒の主体的な姿勢並びに探求心が求められている現在。時代の要請を踏まえ、どのように学校として取り組みが変化、進展しているのか？ ・自主性は与えるものでなく生徒自らが生み出すもの。その環境を十分創出できているか？ ・先生方の手厚いご指導で学習の基礎を学び、居心地の良い学校を卒業するが、社会は厳しいです。在学中はしっかり勉強して考える力を付けてほしい。 ・その生徒の自慢できること(はまっているもの)を、皆に得意げに話させる。 ・特に今年度は、学習や日常生活において不安を抱えた生徒が多くいたと思います。 ・生徒の悩みにスクールカウンセラーを配置して対応したことは良かったと思います。安心しました。 ・コロナによる休校で、学校での学習時間は減ったが、逆に自宅で学習せざるを得なくなり、自発的に学習する時間が増える結果となった。
3 高校の生徒募集の安定化	<p>令和2年度高校入学者は定員400に対し311名(外進生293名、内進生18名)であり、令和元年度入学者(331名)に対して大幅に減少した。また、特進Ⅰ類が40名であり、新2年生同様に少数である。来年度以降、特進Ⅰ類の生徒数の増加が課題となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面倒見がよく進路に期待の持てる学校 ・一人ひとりの生徒が楽しく学ぶことができる学校 ・広報活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教育広報部の職員、管理職等による小・中学校訪問の更なる有効化 ・土曜入試相談のような、本校を直接みてもらう機会の設定 ・説明会などにおける、在校生による説明の機会を増やす ・本校生徒の地域活動への積極的参加により、富士見校の存在感を高める。 ・学校のHPや各看板の内容を工夫 ・現在、大学に接続している高校において入学者が増加する傾向にあることから、本校も、大学との連携を模索する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・8月いっぱいまで感染拡大の防止を重んじ、各イベントを自粛したため中学生や保護者に本校を見てもらう機会や、本校の教育方針や特色を伝える機会も減少してしまった。さらに、自粛したことで、他校より広報活動が遅れてしまったことも、募集に影響したのではないかと感じた。 ・進学コースの生徒が、より一層地域の方々から認められる(誤解されない)ように、月に一度のペースで服装頭髪アドバイスタイムを設けた。そのことで、以前よりも下校する姿がきちんとなりつつあることが増えた。 ・神奈川大学、神奈川工科大学との提携。コロナのため具体的な活動は今後。進学コース入試の面接の志望理由にも挙げられていた。 	<p>A 1人</p> <p>B 3人</p> <p>C 2人</p> <p>D 1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒も各自母校の中学校に行き、本校紹介に加わっての説明会が好評だったように聞いている。 ・入学者が減少した最大の原因は？分析結果は？広報活動の再考の必要性は大きいのか。 ・特進Ⅰ類について、「富士見でなくては！」という魅力創出をどう捉えているか伺いたい。 ・「特質＝他との差別化」が明らかでなければ世間は見向きもしない。本校の「特質」とは？ ・年々子どもの数が減っている。 ・他校は富士見よりどこが魅力的かを知る。 ・提携大学に入るには？専門コースがあるのか？聞かれる。 ・保護者、生徒が何を求めているか？ ・富士見高通信から、教職員の熱意とそれに応えた生徒達が、見出しや内容の力強さでよくわかりました。生徒募集に利用してほしい。

					<ul style="list-style-type: none"> ・少子化や私立高校の競争が多い中で、富士見の特色である「先生方の面倒見の良さ」、「在校生の明るく礼儀正しさ」、「学校設備等」を前面に出して魅力を伝えていきたい。 ・来年以降も小学生および中学生の人数の減少が加速していきます。 ・これまでも広報活動はしてきましたが、より他校と異なる魅力的な特色を外部に宣伝し、富士見高校が選択されるように、全ての教職員が一丸となり、更なる広報活動をする必要があると思います。
4 中学校の運営・推進と生徒募集の安定化	<p>令和2年度中学校入学者予定者は、定員60に対し23名である。今回も定員を大幅に下回った。生徒の実態把握や外部からの情報の分析などにより、教育活動の工夫や生徒募集の改善に努める。また、各教育活動の関連を再確認し、それらの体系化を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を踏まえた学習指導計画の改善と個性を伸ばす指導の工夫 ・8限に自主活動(部活動または自主学習等)の効果を高める工夫 ・教科の学習、F活動、学校行事等の相互の関連や育成したい資質能力との関連などの確認 ・広報活動、入試の回数・方法等、志願者数を増やす工夫 ・令和2年度以降の入学生の教育課程や中高6年間の教育計画の検討 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の中学入試においては、受験者がとても少なく、入学者は10名にとどまった。新型コロナウイルスにより、夏休みまでの体験講座等が中止になり小学生が学校に来る機会が極端に少なかったからだと思われる。 また、富士・富士宮地区における公立中学校が比較的落ち着いているのも希望者が減少している理由にあげられる。 ・令和3年度は、年間行事予定に沿って、生徒募集に関するイベントが行われ、1人でも多くの小学生や保護者に富士見中学を知ってもらうために努力すると共に、在校生が、これまで以上に充実した中学校生活を送り、特進コースに接続し、生徒一人ひとりの進路希望が達成できるように支援していきたい。 ・富士見高校の進路実績を伸ばすための戦力となりうる、学習意欲旺盛な生徒の育成をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の少数化が進み、やむを得ないところもある。 ・広報活動の再考の必要性は大きい。緊急性大。 ・同地域の私学中学との違いは何か？ ・学校として、その溝をどのように解決しようとしているか？ ・経営と募集は、私学にとっては「両輪」である。 ・良い事も悪い事も、保護者のネットワークで伝わる。 ・小学生全学年を対象に、パンフ及び説明会。 ・営業の仕方が努力不足。攻めの営業も。 ・多人数の説明会より個別の方が良い。 ・今の子供達は志望校を決めるのに、親の意見より友達と相談するそうですが、「どの様な学校が魅力的か」子供目線の意見を知りたい。 ・コロナ禍であっても、先生方が精一杯取り組んでこられた様子が伝わって来ました。 ・富士見中学校ならではの、一人ひとりに行き届いた生徒指導、学習指導により、難しいこの時期を乗り越えてほしい。 ・高校の生徒数の安定化を図るにあたり、富士見中学部の充実度の向上があります。 ・中学部から高等部へそのまま生徒が移行となれば、高等部の生徒数安定化に繋がります。 ・東部の私立中学他校に対し、富士見中学が選択されるべき特色が弱いので、中学部にこれまで以上の力を注ぐことが優先かと思えます。 ・1クラスしかないとクラス替えができない為に、生徒同士の人間関係が難しいのが実感です。
その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の大学入試は素晴らしい成果をあげられた。先生方のよき指導に生徒もよくこたえた結果だと思う。今後が続いていくことを期待します。 ・新しい発想は新しい集団から。既存集団からは生まれにくい。校務分掌を超え横断的なワーキング・チームを組み、テーマに沿って課題解決していくことが考えられる。 ・中高一貫の「強み」を生み出せれば新たな局面が出てくるはず。地区の小学校とどれだけ風通しの良い関係を構築できるか。小さなレンガを積み続けるしかない。併せて外への「発信」を続ける姿勢を願う。 ・新聞は世間知らずの自分を育ててくれます。例えば人はそれぞれの考えを持っているので、相手を尊重して受けとめる。そして自分と同じ考えの人がいたら、ラッキーだと思うこと等、なにげない記事の中から教えてくれます。 ・生徒が中心となり制作している「コミュニティ通信」を楽しみに見えています。内容から学校と地域住民の方々との信頼関係がより身近に感じられた。 ・コロナの影響で行事が中止となり、学校に来る機会が減ったことで、生徒募集のPR、3年生の受験、卒業アルバムの写真、保護者会役員選出に影響が出たと考えられる。 				

今後に向けての学校の考え（学校関係者評価を受けて）

本年度も重点目標として「学校改善の継承と推進」「学習支援の強化」そして私学の経営基盤でもある「生徒募集の安定化」について、学校全体が中長期的な視点を持ちながら学校教育活動に取り組んだ。各部・学年がこの重点目標に沿った具体的目標を掲げ、日々の教育活動に取り組んだ結果、教育目標は概ね達成することができたが、生徒募集に関しては満足な結果を得ることが出来なかった。

国公立大学の合格者は昨年度の33名から今年度は〇〇名と若干減少したが、特進コースの卒業生の減少を勘案すると善戦したと考えられる。また就職希望者はコロナ禍の厳しさの中、今年度も100%の内定率を達成するなど、進路に希望が持てる学校づくりに向け一定の成果が出ている。

また、部活動においては昨年度に引き続き、バレーボール部、バトントワリング部が全国大会に出場し、部活動活性化の一翼を担っている。

学校生活は総じて落ち着いていると言えるが、コロナ禍の中ストレスや悩み事等を抱えている生徒が増加しているように思われる。今後も教育相談体制を充実させ、引き続き、生徒の健全な成長を促す努力を継続したい。

一方で、生徒募集においては富士・富士宮地区の生徒数急減の中、入学者数の確保には苦戦し、中学・高校共に大幅な定員割れをした。本校の特色や魅力について再構築し、他校との差別化を図る中で、地域から選ばれる、信頼される魅力的な学校を目指し、教職員一丸となって広報活動を行い、この難しい局面を乗り越えていきたい。